

平成28年度 中学3年 「全国学力・学習状況調査」結果

中学3年生	国語	A 基本的内容	②全国標準と「やや上回っている」
		B 応用・発展的な内容	②全国標準を「やや上回っている」
	数学	A 基本的内容	③全国標準と「同程度である」
		B 応用・発展的な内容	②全国標準を「やや上回っている」

結果のコメント ①上回っている ②やや上回っている ③同程度である ④努力を要する

<調査結果と分析>

- 国語Aでは、相手や場に応じた言葉遣い、文脈の語句の理解など、語彙に関する正答率が高い。また、文章の展開に即して内容をとらえることができる。伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことなど、第1学年の学習内容に課題がある。
- 国語Bでは、すべての分野で全国平均を上回っている。中心的な部分と付加的な部分とを読み分けて要旨をとらえるなど、読む能力が高い。資料を基にして必要な情報を読み取り、根拠を明確にして書くことの記述式に課題がある。
- 数学Aでは、基礎的な計算は正答率が高い。相対度数の求め方や対称移動した図の作図など1学年で学習内容に課題がある。
- 数学Bでは、ほとんどの分野で全国平均を上回っている。数学的な考えで問題を解決していく力に苦手さを感じる。

<本校の特徴と改善の取組>

国語Bと数学A・Bともに、27年度より成果が上がっている。ほとんどの領域において全国平均正答率よりやや高い結果がでており、日常の学習の成果が十分に発揮されている結果と考えられる。本校は、学習規律を明確にして、落ち着いた環境の中で学習していくこの取組を始めて3年目になる。基礎基本を重視した、プリントを宿題として授業のたびに行っている。また、本年度から試験前の補充学習を実施しており、全員が静かに集中して取り組んでいる。

このような毎日の基本的な学習の取り組みが、生徒の学習習慣として、確実に身につけている結果が顕れています。

また、学習状況調査の結果から、早寝、早起きなどの基本的な生活習慣は、全国よりやや高い水準であり、夢や目標をもち、人の役に立ちたいと考える生徒が多い。しかし、家庭学習を計画的に進めている割合は全国平均よりやや低い。また、自分の考えを表現することやまとめたり、他者とコミュニケーションをとりながら思考力を高めたり、自分の言葉で考えを表現したりすることが苦手な生徒が多く見られた。

このことから、各教科における「思考力・判断力・表現力」を重視した授業の取組として、さまざまな資料から自分自身で判断することや、自分の考えをまとめ、積極的に発表したり、他者と学習課題についてコミュニケーションをとりながら意見をまとめたりする場面を取り入れた授業づくりを図ってまいります。